

実施クラス			実施日			実施保育者名
5	歳児	ぞう 組	6	月	19 日 (木)	濱中

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～光～ 光と影の探検ごっこ		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
前週の影あそびが広がり、園内外でできる影を発見し、影でできる様々な遊びを楽しんでいる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・「影あそびはどんな遊びだったかな?」「影はどんな形をしていたかな?」「太陽が雲に隠れた時には影はどうなったかな?」等、前回の活動を振り返る。 ・実際に行った経験から「影ができるためには何が必要なのかな?」「影ができるのは外だけかな?」と問いかける。 ・光について子どもが気がついた時に、太陽とライトから光が直進する図解を出し、光と影の関係性について「どんな時に光や影があるかな?」「光が出るもの、影ができるものって何かな?」等と問いかける。	【環境設定】 ・ 懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な 箇所がないか確認しておく。 ・ 暗い環境が苦手な子がいないかを把握しておく。 ・ 暗転した保育室で災害が発生した場合でも、瞬時に対応ができるよう、避難経路の確保と備品の確認をしておく。 【準備物】 ・ 懐中電灯 ・ 影や反射ができる物品 ・ ホワイトボード、マーカー ■参考資料 ・ 太陽とライトから光が直進する図解 ・ 光の反射の図解 【事前準備】 ・ 探究活動に使用する用具（懐中電灯、鏡など）使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・ わかりやすいイラストや写真を選定する。
10:10～10:30	・「電気を消したら光は無くなるのかな?」「暗くなったら影はどうなるのかな?」「どうしてそう思ったのかな?」と保育室を暗くしたら影はどうなるか調べてみよう」と提案する。 ・「影は見えるかな?」等と問いかけ、光がないと影はどうなるかを一緒に確認していく。 ・電気をつけ、「暗くなったら影はどうなったかな?」「何色に見えたかな?」と気づいた事を話せる場を設け「どうして影が見えなくなったのかな?」と問いを投げかける。 ・ 懐中電灯の使い方を伝え、「どうやったらみんなで使えるかな?」「違うグループも一緒に探検するから、どんな事に気をつけたらいいかな?」等グループで使うためにはどうしたらよいかを話し合っ 再び保育室を暗くして、懐中電灯を使って照らしながら探検をしてみる。「さっき影が無くなった場所に光を当てるとどうなったかな?」「影はどうなっているのかな?」「光はどうなっているかな?」と問いかけ、光と影の様子を観察できるようにする。	

10:30～10:40	・「光はどう進んでいるかな?」「この光はどこから来たのかな」と問いかけ、反射に気がつけるような声掛けもしてみる。 ・グループごとに、探検での発見や感想を発表する。内容に合わせて「どのように光や影が見えましたか?」「光や影の大きさはどうでしたか?」「光が跳ね返ったのはどんな物がありましたか?」と問いを投げかけてみる。 ・光の反射の図解を見せ、光が何かに当たって跳ね返ることを「反射」というと説明する。 ・「鏡の他にも反射したものはあるかな?」「どんな物が反射するのかな?」「ツルツルとザラザラだと変わるのかな?」等反射する物・しない物はどんなものがあるのかを予想をする。 ・次回、調べてみよう(実験してみよう)と提案すし、探究の継続と次回への意欲がわくような声掛けをする。	
-------------	---	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・光とは何か、子ども達が知っている事を出し合う。なぜ光が必要なのかなど、どんな場面で必要なのかを一緒に考えるようにした。懐中電灯を使っての実験では自分の手を使って影を使ったり、また窓や鏡などの反射するものを実験として行った。	【子どもの姿・声】 ・光とはどんなものがあるのかの問いかけに対して、子ども達がそれぞれ発言していき、「たいよう」「でんき」などの声があがっていた。保育室にあるものの中で反射する実験を行い。鏡や窓は反射をするが、壁には反射しないという気づきもあった。どうして反射するのかを考えたときに窓や鏡にも光があることを実験を通してしることができた。 【保育者との関わり】 ・光をテーマにしていくなかで、日常の中でどんなものがあるのか、意見を出してもらい保育者も一緒に考えるようにした。実験を通して知ることを楽しめるようにし、他に反射するものは何かなど次回の活動への期待に繋げるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
懐中電灯を使って影を出してみると、子ども達から明かりを近づけると影が小さくなって、離すと大きくなるよなどの気づきがあり、「どうしてだろう」と探究活動の中で大事にしている事が実践できた。また活動を重ねることに子ども達からの発言が増えて来ているように感じた。	探究活動を重ねていくなかで、子ども達からの声が増えてきていますね。先生たちがどんな意見でも発信して良いし、聞いてもらえる安心感を出してくれているからです！そして、ちいさなつばやきも拾ってくれるのを分かっているからこそですね。そういったやりとりが探求プログラムには欠かせないと思います。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5歳児 ぞう 組	9 月 5 日 (土)	濱中

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～食べる～ なぜ食べるの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日常生活の中で、「どうしてお腹がすくの？」「お菓子だけじゃだめなの？」といった自分の体験に基づく疑問を持ち、食べることと体の変化とのつながりに関心を示している。生活経験を通して、「なぜ食べるのか」という根源的な問いに自然に触れ、探究心を深める芽を見せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・自分の体を調べてみよう提案する。	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切に する。 【活動使用教材】 ・食べることにに関する絵本 ・鏡 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・体を動かしたりできるようスペースを設定しておく。
	・自分の体を観察してみる。	
	・目に見えないからだの中を意識してみる。	
10:10～10:30	・昨日食べたご飯が、今、体のどこにあるか問いかける。	
	・ごはんを食べるとどうなるか話し合ってみる。	
	・ごはんを食べないとどうなるか話し合ってみる。	
10:30～10:40	・話し合っ分かったことや発表を聞いての感想を発表する。発表の内容をホワイトボードにまとめていく。 ・なぜ食べるのか、食べることと体の関係を確認する。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・自分の体を調べてみよう提案し、自分の体を調べ、子どもの気付きや発言内容をホワイトボードにまとめた。 ・絵本を読み、体と食べ物の関わりを探究を深めるきっかけとした。 ・今日の朝ごはんは今、体のどこにあるか問いかけ、食べ物食べた後、どうなるのかを子どもが予想し発言する。 ・ごはんを食べないとどうなるか話し合う。 ・気づきや調べた内容を共有し合い、食べることと体の関係を確認した。	【子どもの姿・声】 食事について、身近なものではあるが、体のどこを通過しているかなど、絵本を見て知る子が多く、自分の体を触りながら「ここかな」と興味を持っていた。 【保育者との関わり】 ・昨日の夜ご飯はおなかに残っているのかなどを問いかけてみると、おなかを触って確認をしていた。また「トイレにいったからもうないよ」と話している子もいて、絵本の内容を理解していた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・食事の大切さなどを改めて知る機会となり、子ども達と一緒に「どうして」「なんで」を一つずつ理解していくことができた。同時に食事を通して体の仕組みや栄養についても知るきっかけを作らうにしていた。	同じ食べ物のテーマでも8月は食育の視点でしたが9月は身体や健康につながりますね。食べることの大切さを感じてもらえると良いですね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 ぞう 組	10 月 8 日 (水)	金谷

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ これは何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日々の生活の中で、身の回りにある色に自然と目を向けている。『この花はあか！』『先生の服はみどりだね』と色を言葉にしたり、絵を描くときに好きな色を選んだりしている。また、食事の中でも『にんじんはオレンジだね』『ブロッコリーはみどりだ』と気づいたり、活動の中で色の違いや混ざり方に関心をもつ姿も見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00-10:15	・「いろおに」をして、保育室内の色に関心をもたせる。 ・色の原料の写真から何色ができるかを考える。 ・12色の色画用紙の中から、好きな1色を選ぶ。 ・選んだ理由を考え、なぜその色が好きなのかを考える。	【環境設定】 ・子どもたちがたくさん色を見つけやすいように、環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 【準備物】 ・12色(赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶)の色画用紙 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クちなシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨)
10:15～10:30	・白い画用紙を選んだ色と同じ色にしてみようと問いかける。 ・素材から何色になるのかを想像して白画用紙にこすりつける。	・寒色暖色中間色の色見本 【事前準備】 ・赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶色の八つ切り画用紙 →16等分に切り分ける。(人数分またはグループで1セット)
10:30～10:45	・色の持つ印象について話し合う。 ・「どの色が楽しい?」「どの色が悲しい?」など、色彩心理学の視点から色の効果を体感する。 ・「赤は元気が出る色?それとも静かな色?」など、感じ方の違いを共有する。 ・学んだ色の働きや面白さについて発表し合う。 ・生活の中で色を意識する機会を増やすよう促す。 ・身の回りの色に注目し、それぞれが持つ意味や効果を考える。 ・「今日学んだ色のことを、これからどんな場面で思い出せるかな?」と問いかけ、生活と結びつける。	・色の効果、寒色暖色中間色について事前に学習して理解を深めておく。 ・色の原料について事前に学習して理解を深めておく。 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真。(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クちなシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本をプリントする。 ・白い画用紙と着色が期待できる素材を複数用意しておく。 ・色彩心理学に関する資料を用意し、理解しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
色の違いや色はどうやって作られるのかについて関心をもち、積極的に考えながら活動を進めた。「青は悲しい気持ち」「黄色は元気になる色」と色の印象を話し合い、色の持つ効果を実感していた。また、実際に12色の中から好きな色を選び、「この色が好きな理由」や「どんなことを思い浮かぶ?」かを考えることで、色への理解をより深めていた。	【子どもの姿・声】 ・「オレンジや黄色は暖かくて明るくなれる」、「明るい色と暗い色を混ぜたら、何色になるのかな?」など、自分なりに考えながらそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 【保育者との関わり】 ・「この色を見てどんな気持ちだと思う?」「暖かく思う色と寒く感じる色ってどんないろかな?」と問いかけながら、子どもたちが色の持つ意味を持てるように問いかけた。また、色がどうやって作られているのかを写真を見せながら簡単に紹介し、興味を広げるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・12色の中から、自分の好きな色を選びその理由を考え発表し合うことで、色への理解が深まり、表現する力も育まれていた。 ・透明は明るい色と思っていたが、「涙と同じ色で悲しくなると涙が出るから悲しい色」と違う視点で見ることのできるのだと、気づいた。 ・色がどうやって作られるのか興味を示し、「誰が作っているのかな?」と疑問に思ったり、質問する姿が見られた。	色に対するイメージが人それぞれ違いますね。子どもたちなりに「涙と同じだから悲しい色」と感じたことを表現していることに驚きでした。他の先生とも共有しながらまami先生のイメージも膨らんでいったような気がします。